

# 一般社団法人 日本建設機械工業会 会長記者会見

— 建設機械需要予測(2024年8月公表分)—

2024年8月9日

会長 山本明

## ●記者会見次第

- |      |   |                  |             |
|------|---|------------------|-------------|
| 1. 開 | 会 | ： 樋口広報部会長        | 10:30       |
| 2. 報 | 告 | ： 山本会長           | 10:35～11:00 |
|      |   | ・建設機械需要予測(出荷ベース) |             |
| 3. 質 | 疑 | 応答               | 11:00～11:30 |
| 4. 閉 | 会 | ： 樋口広報部会長        | 11:30       |

## 【需要予測の概要】



- ・毎年度8月、2月に公表。今回で66回目。
- ・調査対象：建機工正会員である建設機械メーカー61社
- ・調査時点：2024年7月
- ・調査対象期間：2024年度上下期と2025年度上下期の4期
- ・対象機種：9機種（トラクタ、油圧ショベル、ミニショベル、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、基礎機械、油圧ブレーカ・油圧圧砕機、その他建設機械）

（次回は2025年2月18日（火）に公表予定）

## 1. 2024、25年度の需要予測

### (1) 出荷金額ベース

- ① 年度比較
- ② 半期比較
- ③ 機種別推移(補給部品を含む)
- ④ 国内・輸出別推移

### (2) 台数ベース

- ① 油圧ショベル
- ② ミニショベル

## 2. 会員の見方

### (1) 国内需要予測の背景

- ① 公共投資
- ② 民間設備投資
- ③ 住宅投資

### (2) 海外需要予測の背景

- ① 北米市場の動向
- ② 欧州市場の動向
- ③ 中国を除くアジア市場動向  
(含むオセアニア)
- ④ 中国市場の動向

### (3) 為替動向

- ① 対ドル
- ② 対ユーロ

### (4) トピックス調査

- ① 需要予測に影響を与える要因

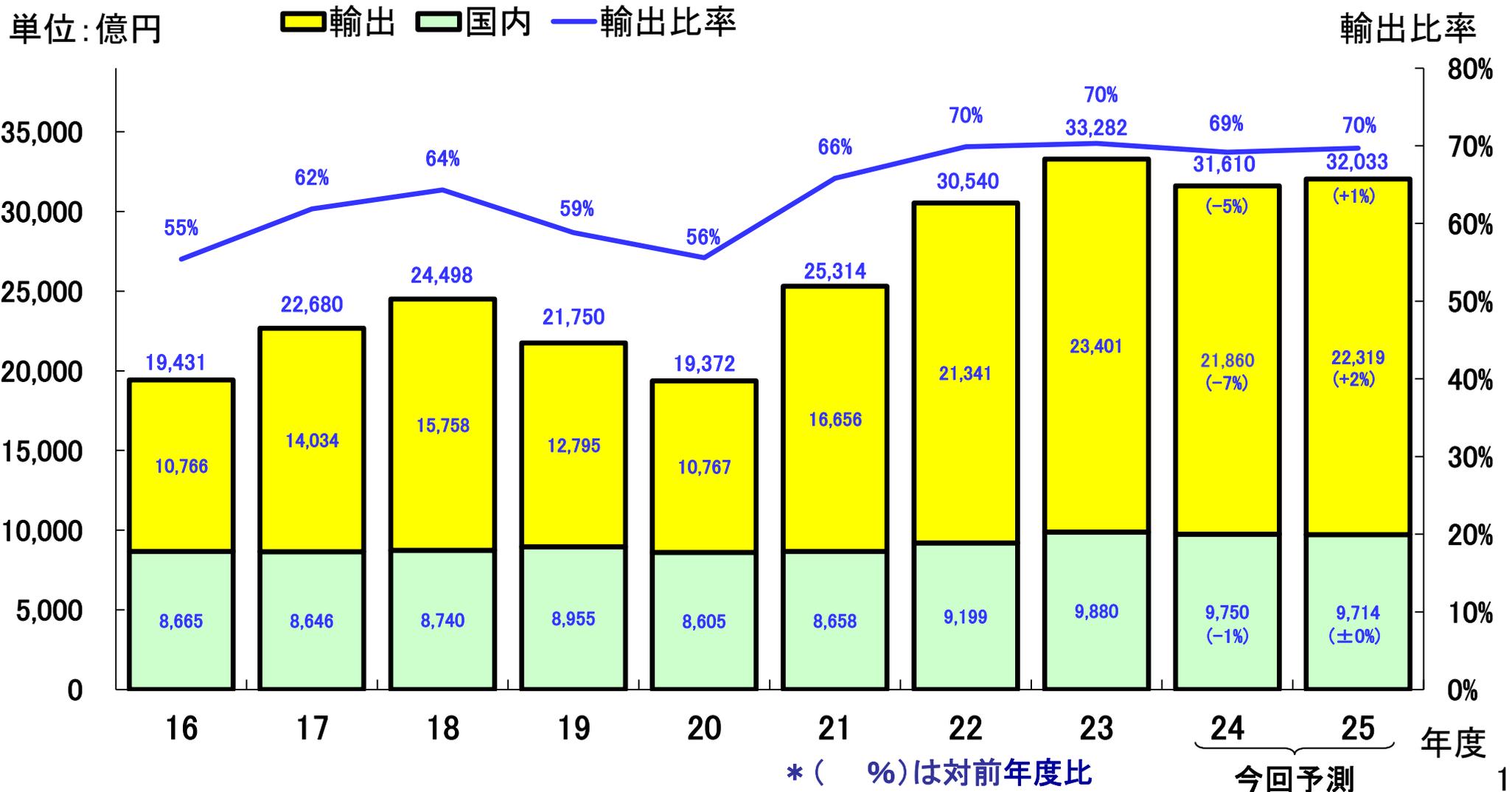
## 3. 出荷金額実績

- ① 機種別推移(暦年): 2016～2023年
- ② 仕向先別構成比推移: 2016～2023年
- ③ 仕向先別構成比推移: 2024年4～6月
- ④ 仕向先別2007年度を100とする指数の推移

# 1. 2024、25年度の需要予測(1)出荷金額ベース

## ①年度比較

- 24年度は国内は微減、輸出は減少に転じ、3兆1,610億円(前年度比5%減)と予測。
- 25年度は国内、輸出ともに底堅く推移し、過去2番目の3兆2,033億円(前年度比1%増)と予測。



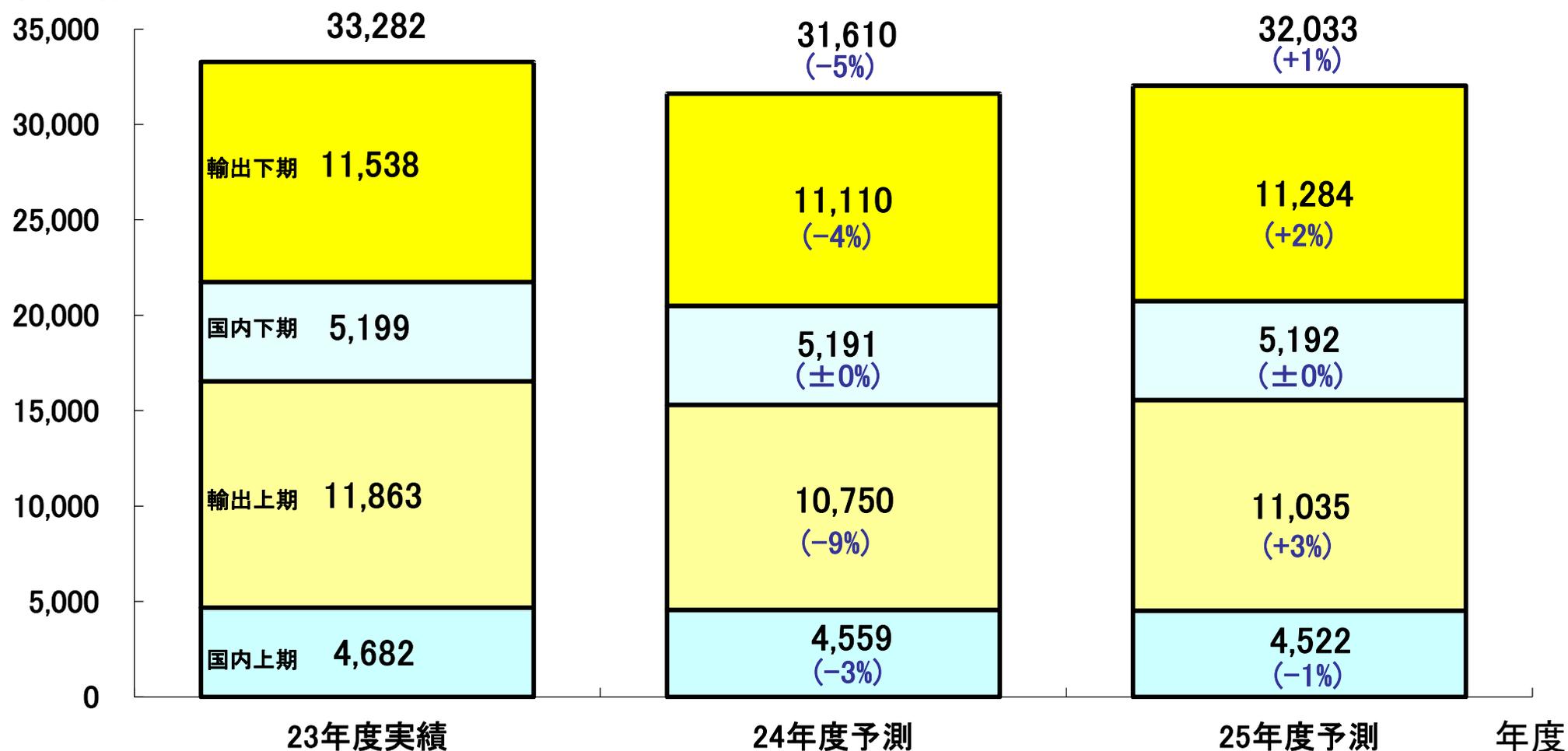
# 1. 2024、25年度の需要予測(1)出荷金額ベース



## ②半期比較

- 24年度は国内は上期減少、下期横這い。輸出は上期、下期ともに減少。
- 25年度は国内は前年並み。輸出は上期、下期ともに増加。

単位: 億円

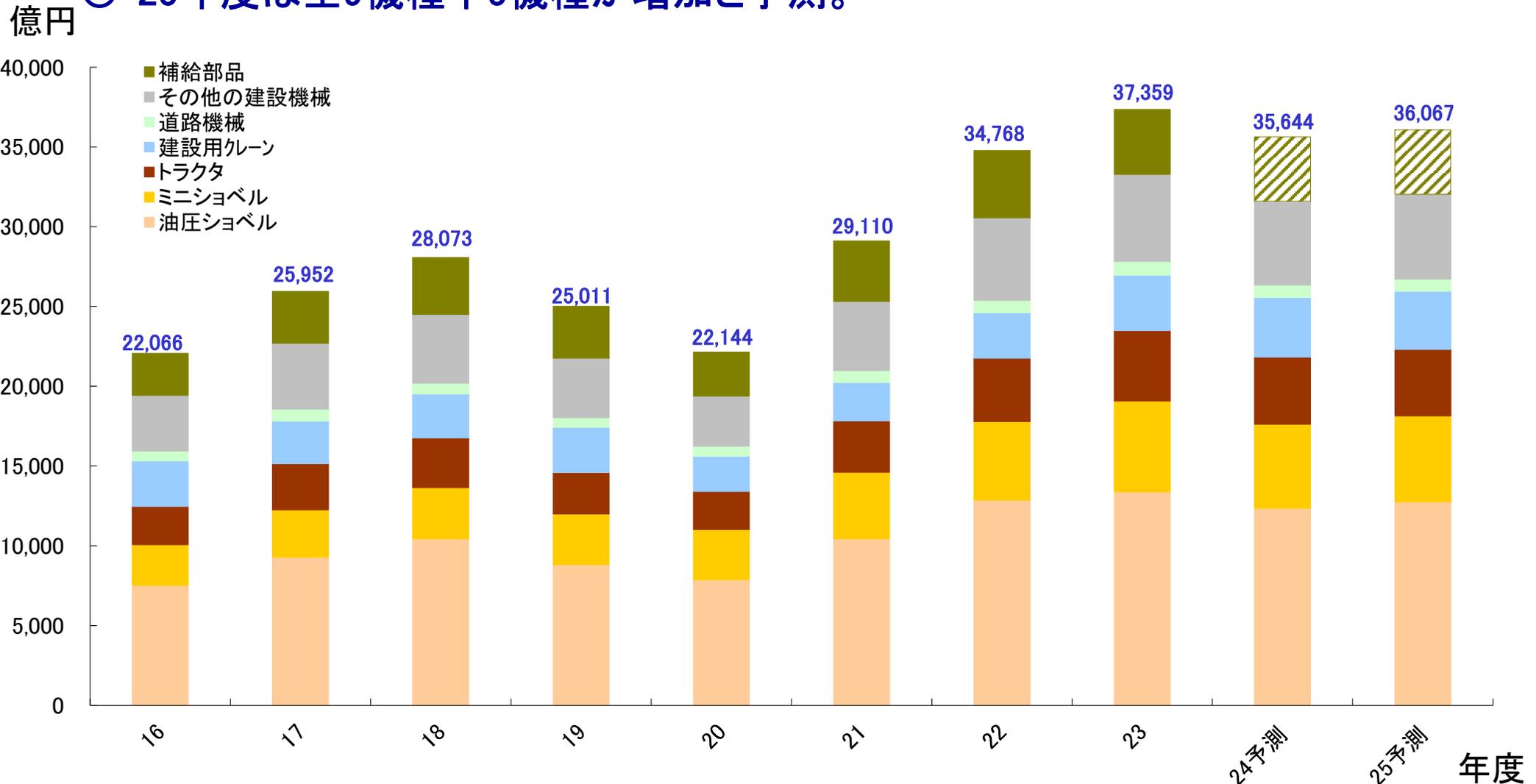


\* ( %)は対前年同期比

# 1. 2024、25年度の需要予測(1)出荷金額ベース

## ③機種別推移(補給部品を含む)

- 24年度は全9機種中2機種が増加と予測。
- 25年度は全9機種中5機種が増加と予測。



\* 9機種(油圧ショベル、ミニショベル、トラクタ、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、基礎機械、油圧ブレーカ圧砕機、その他建設機械)の出荷金額ベース。ただし、補給部品の24年度予測および25年度予測については、過去5年間の平均額(4,034億円)とする。

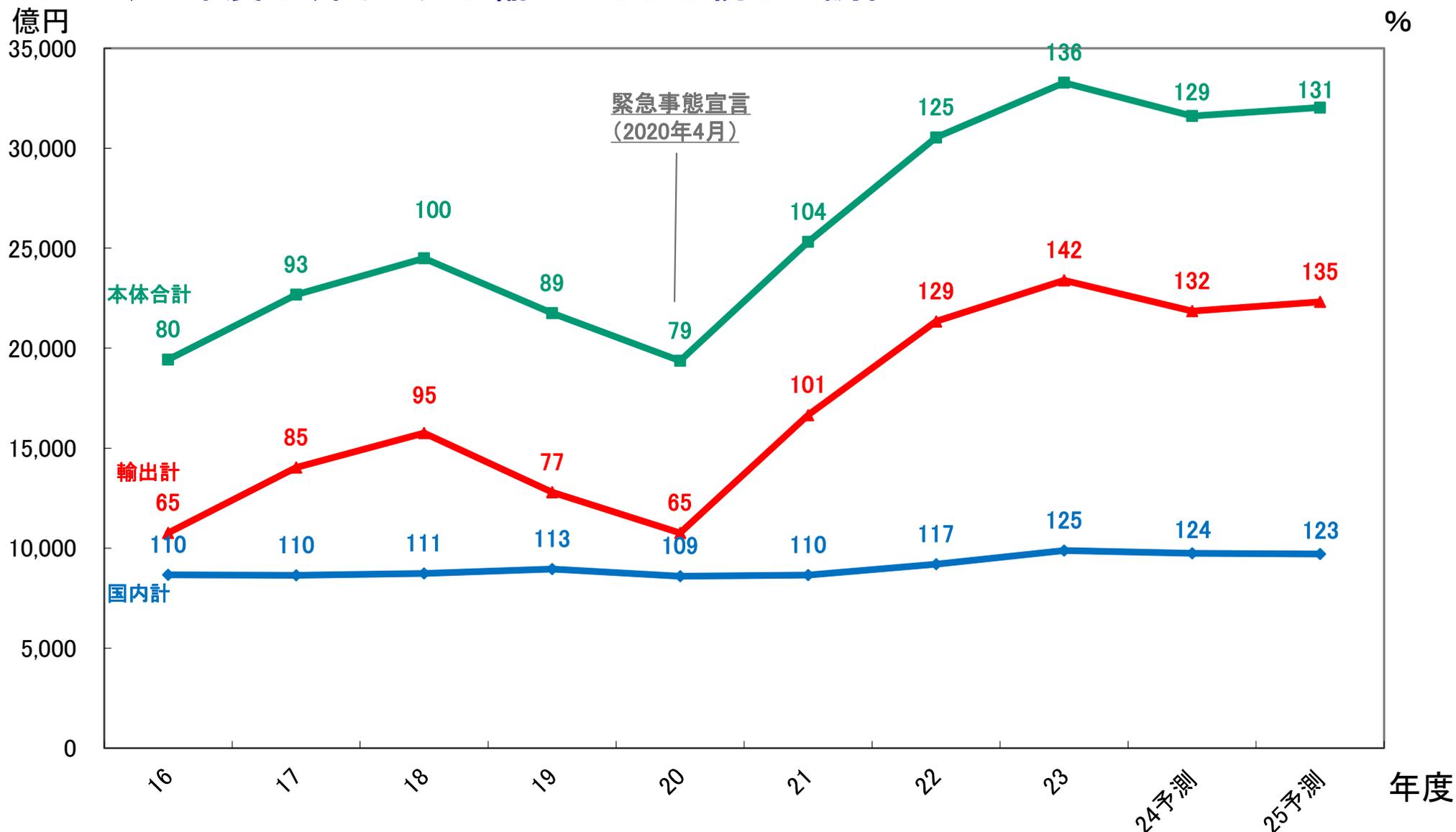
出典: 建機工自主統計

# 1. 2024、25年度の需要予測(1)出荷金額ベース



## ④国内・輸出別推移

○ 24、25年度は、国内及び輸出とも引き続き堅調。



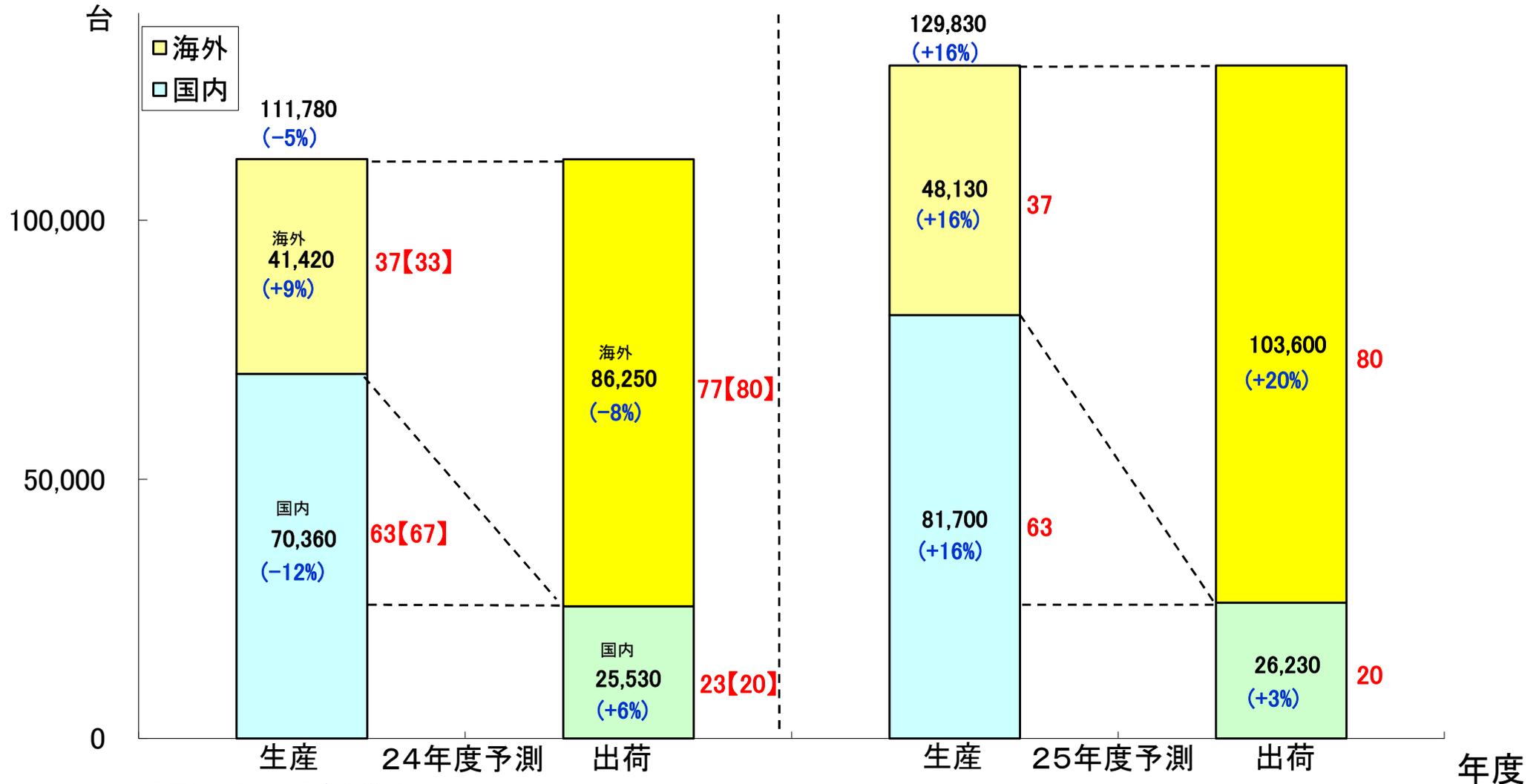
\* 9機種(油圧ショベル、ミニショベル、トラクタ、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、基礎機械、油圧ブレーカ圧砕機、その他建設機械)の指数(2007年出荷金額を100とする)

出典:建機工自主統計

# 1. 2024、25年度の需要予測(2)台数ベース

## ①油圧ショベル

- 24年度は、海外生産が「増加」、国内は生産が「減少」、出荷は「増加」。
- 25年度は、国内・海外とも生産及び出荷の双方が「増加」。



\* 油圧ショベルの生産台数ベース

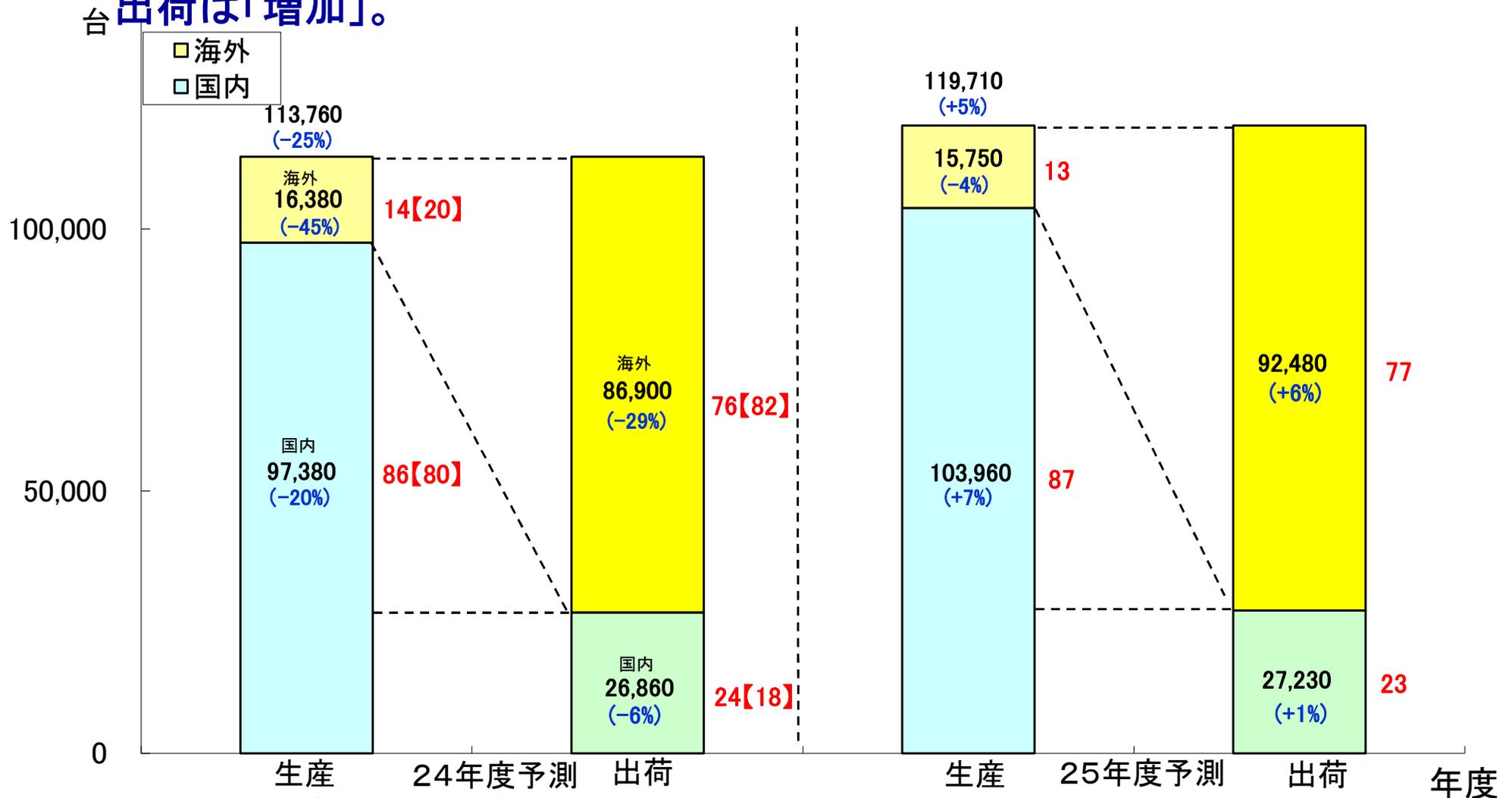
\* 赤字は国内海外比率。【 】内は、2月時点の見通し値 ( )内は、前年度比。

出典: 建機工調べ

# 1. 2024、25年度の需要予測(2)台数ベース

## ②ミニショベル

- 24年度は、国内・海外ともに生産及び出荷の双方が「減少」。
- 25年度は、国内は生産及び出荷の双方が「増加」、海外は生産が「減少」、出荷は「増加」。



\*ミニショベルの生産台数ベース

\*赤数字は国内海外比率。【 】内は、2月時点の見通し値 ( )内は、前年度比。

出典:建機工調べ

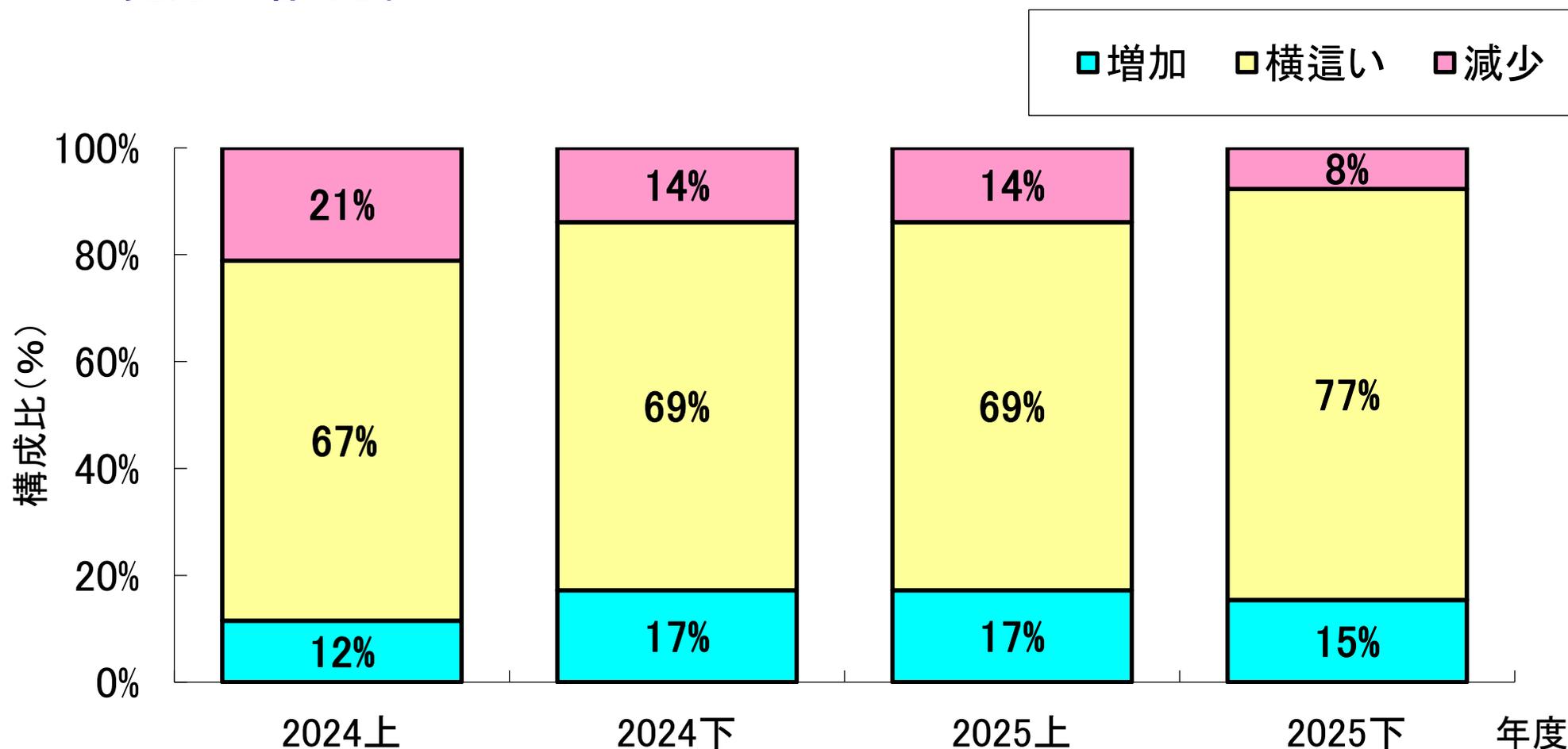
## 2. 会員の見方

### (1) 国内需要予測の背景



#### ① 公共投資

○ 24、25年度とも「横這い」の見方が大勢を占めるも、24年度下期からは「増加」の見方が増える。



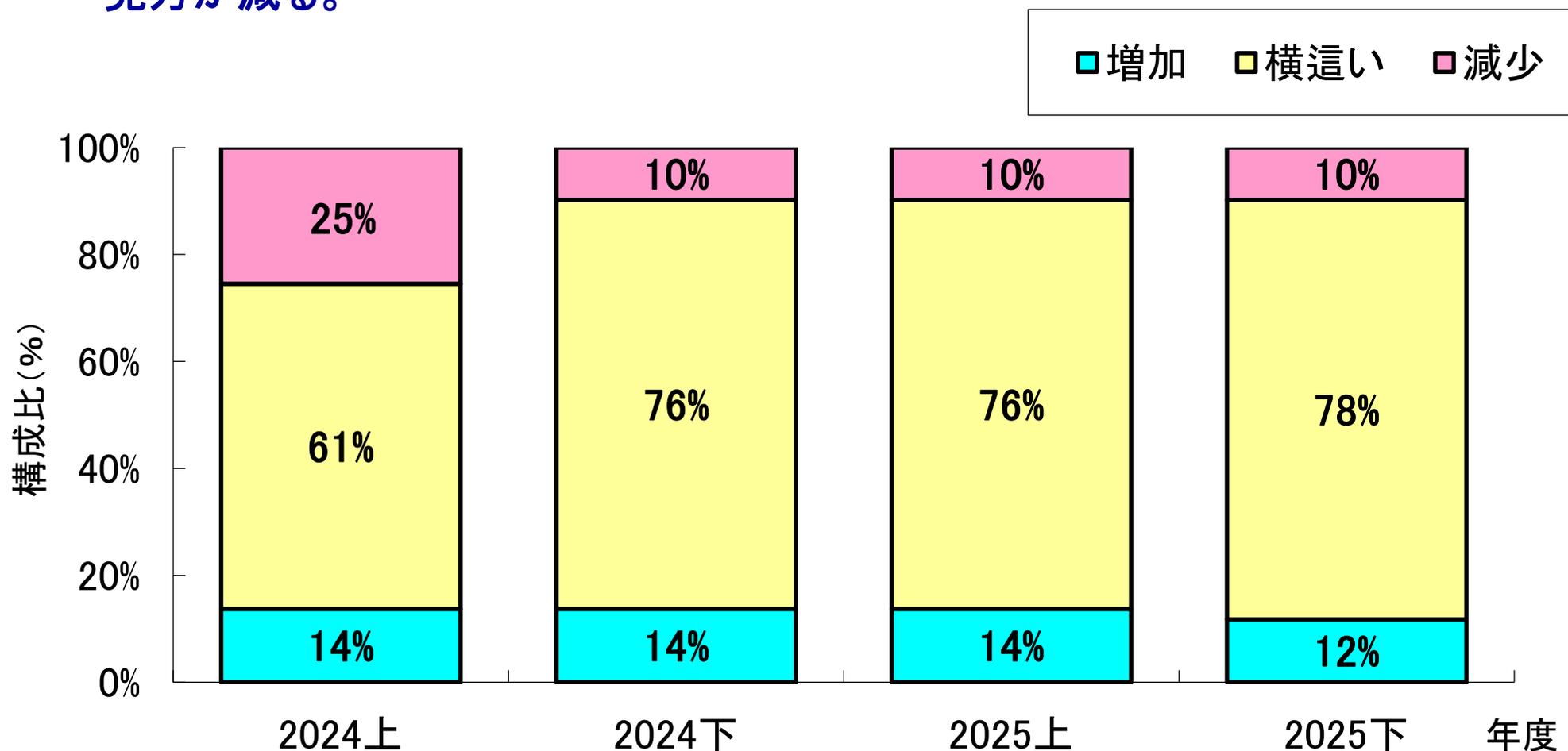
## 2. 会員の見方

### (1) 国内需要予測の背景



#### ② 民間設備投資

○ 24、25年度ともに「横這い」の見方が大勢を占めるも、24年度下期から「減少」の見方が減る。



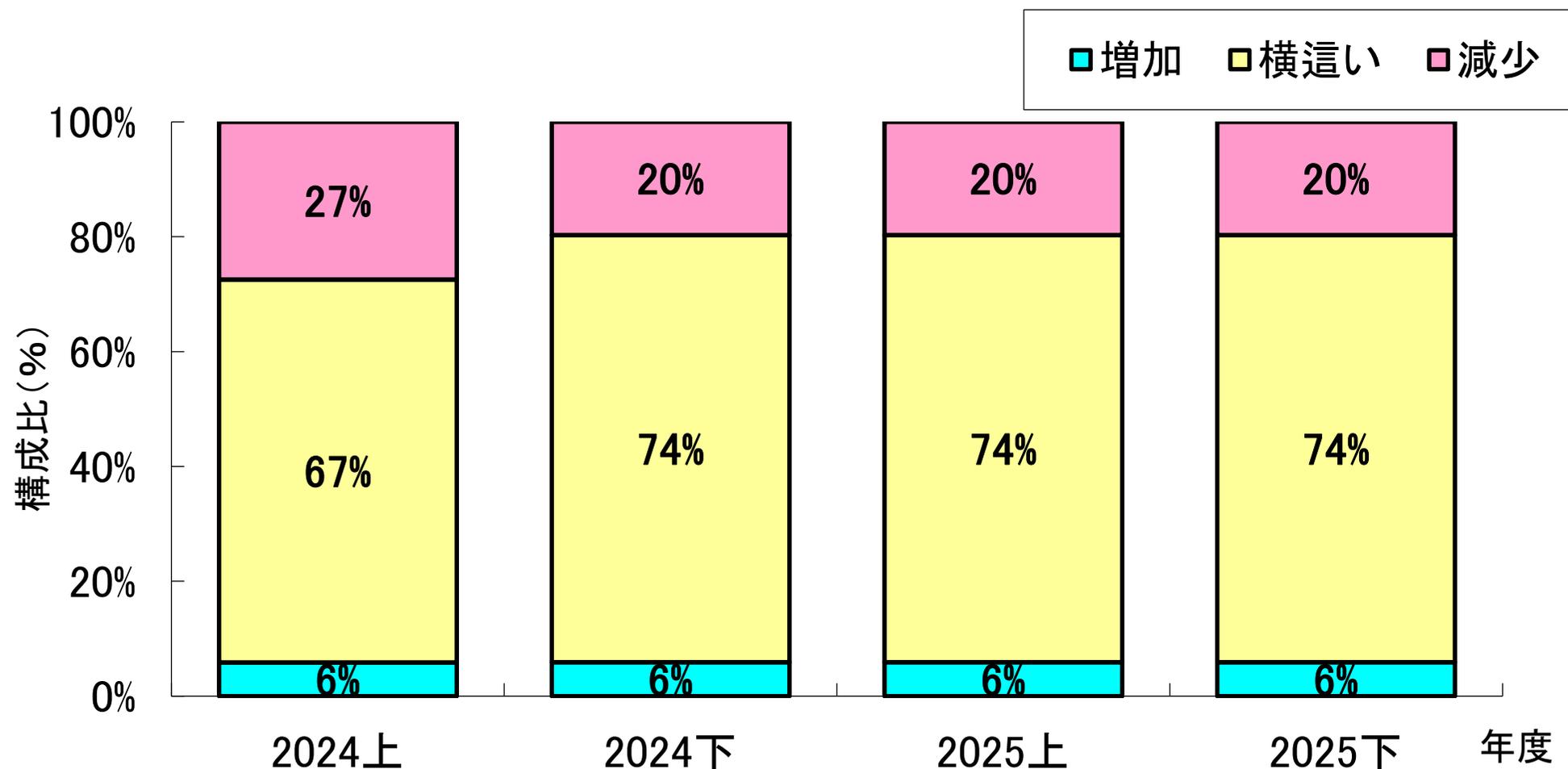
## 2. 会員の見方

### (1) 国内需要予測の背景



#### ③ 住宅投資

○ 24、25年度ともに「横這い」の見方が大勢を占めるも、24年度下期から「減少」の見方が減る。

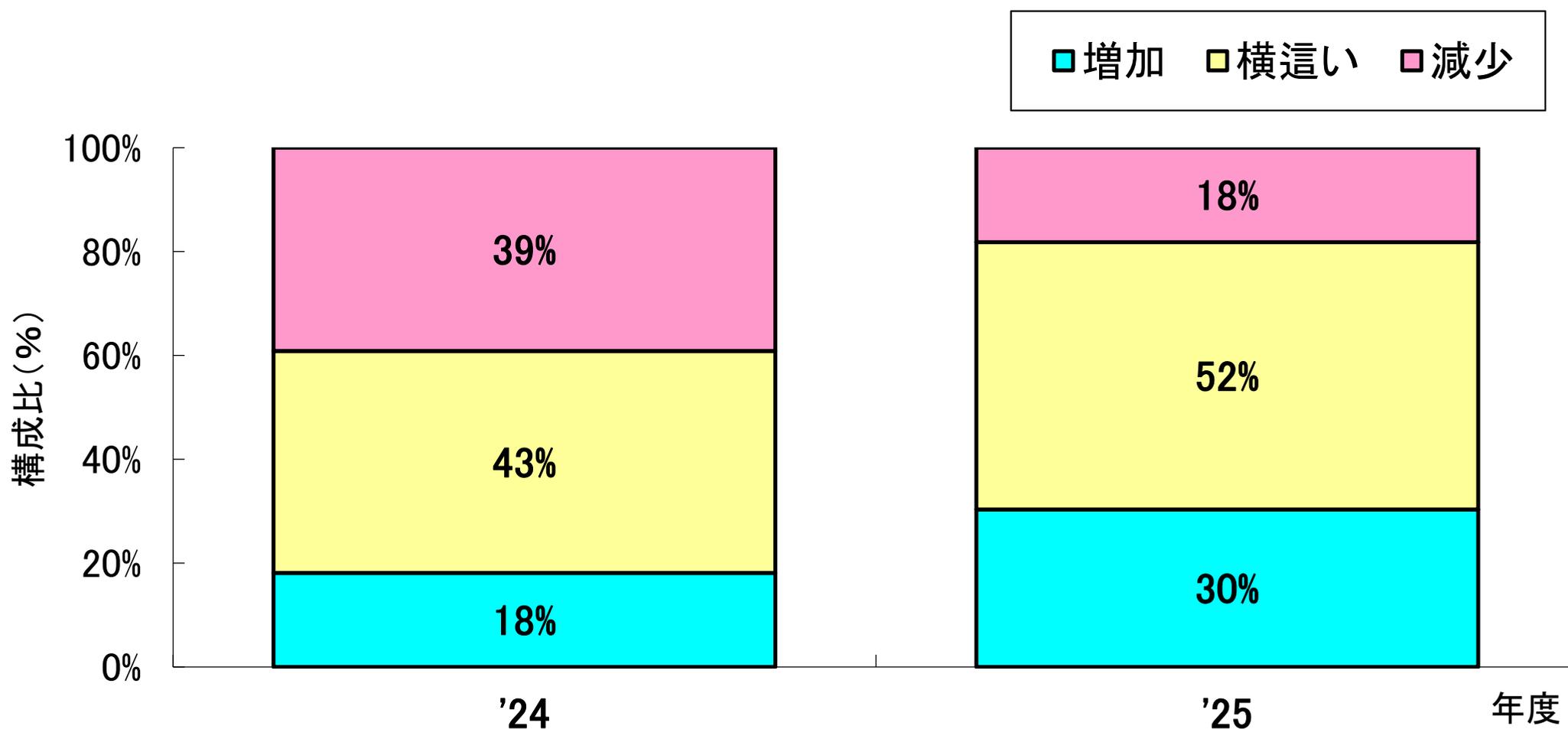


## 2. 会員の見方 (2) 海外需要予測の背景



### ① 北米市場の動向

○ 24年度は「減少」の見方が多いが、25年度は「増加」の見方が増える。

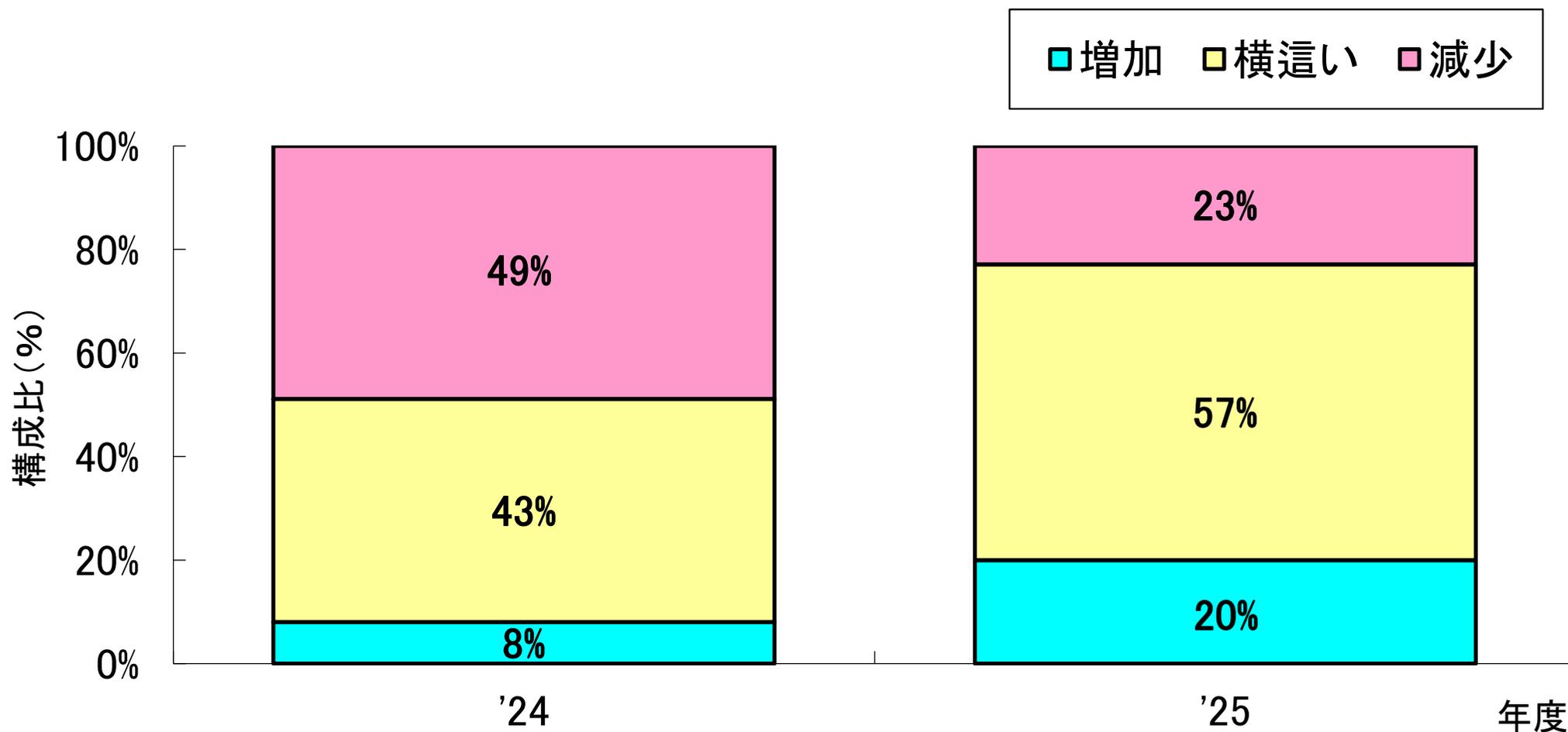


## 2. 会員の見方 (2) 海外需要予測の背景



### ② 欧州市場の動向

○ 24年度は「減少」の見方が多いが、25年度は「増加」の見方が増える。

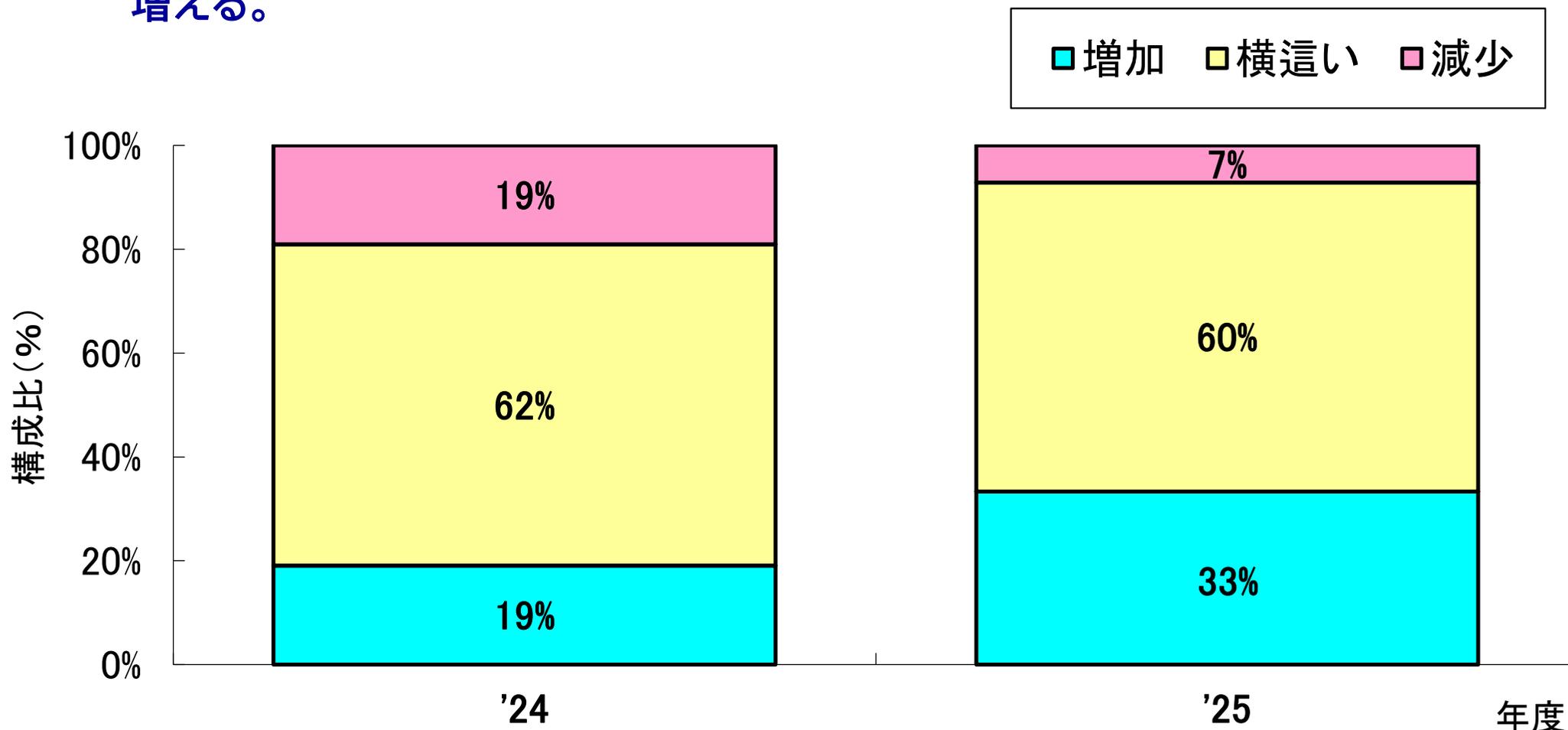


## 2. 会員の見方 (2) 海外需要予測の背景



### ③ 中国を除くアジア市場の動向（含むオセアニア）

○ 24、25年度とも「横這い」の見方が大勢を占めるも、25年度は「増加」の見方が増える。

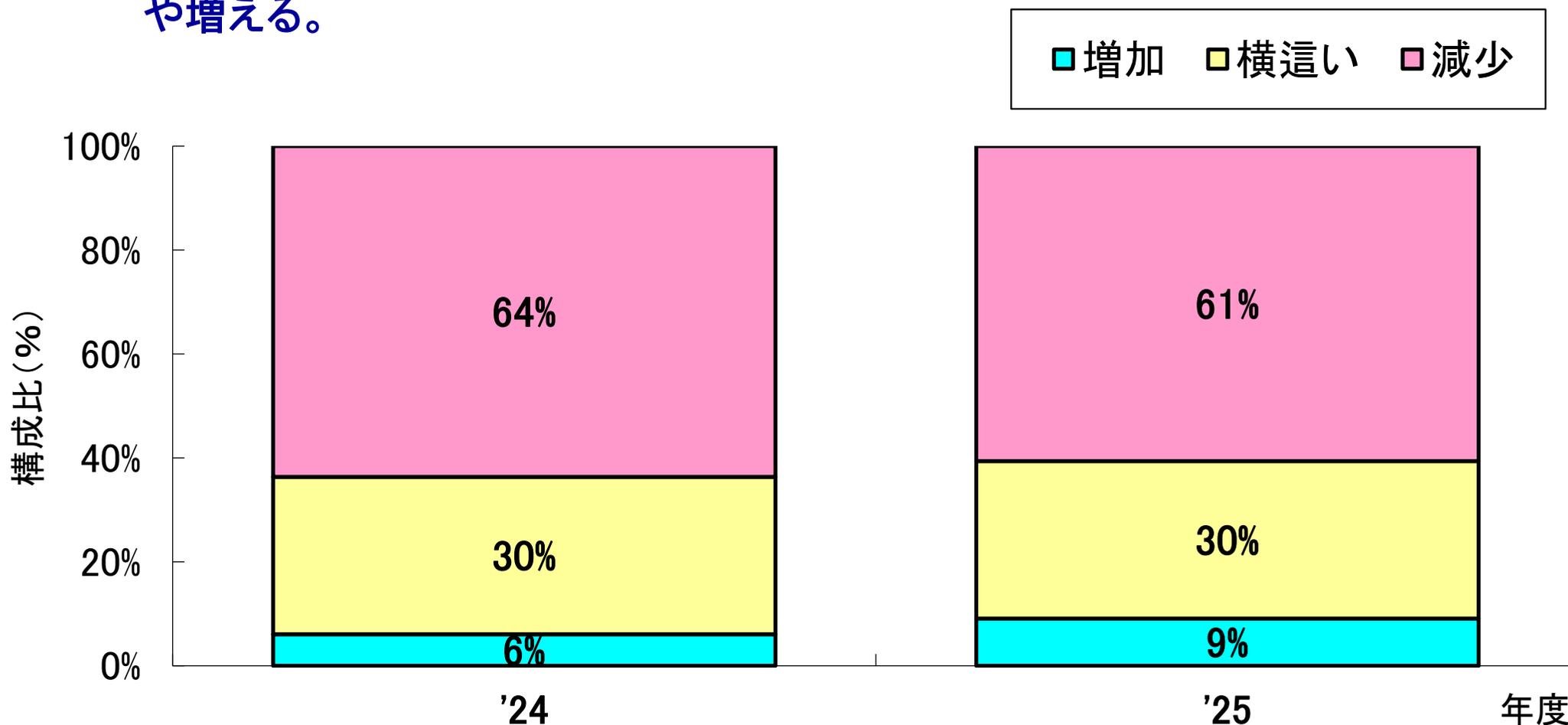


## 2. 会員の見方 (2) 海外需要予測の背景



### ④ 中国市場の動向

○ 24、25年度とも「減少」の見方が大勢を占めるも、25年度は「増加」の見方がやや増える。

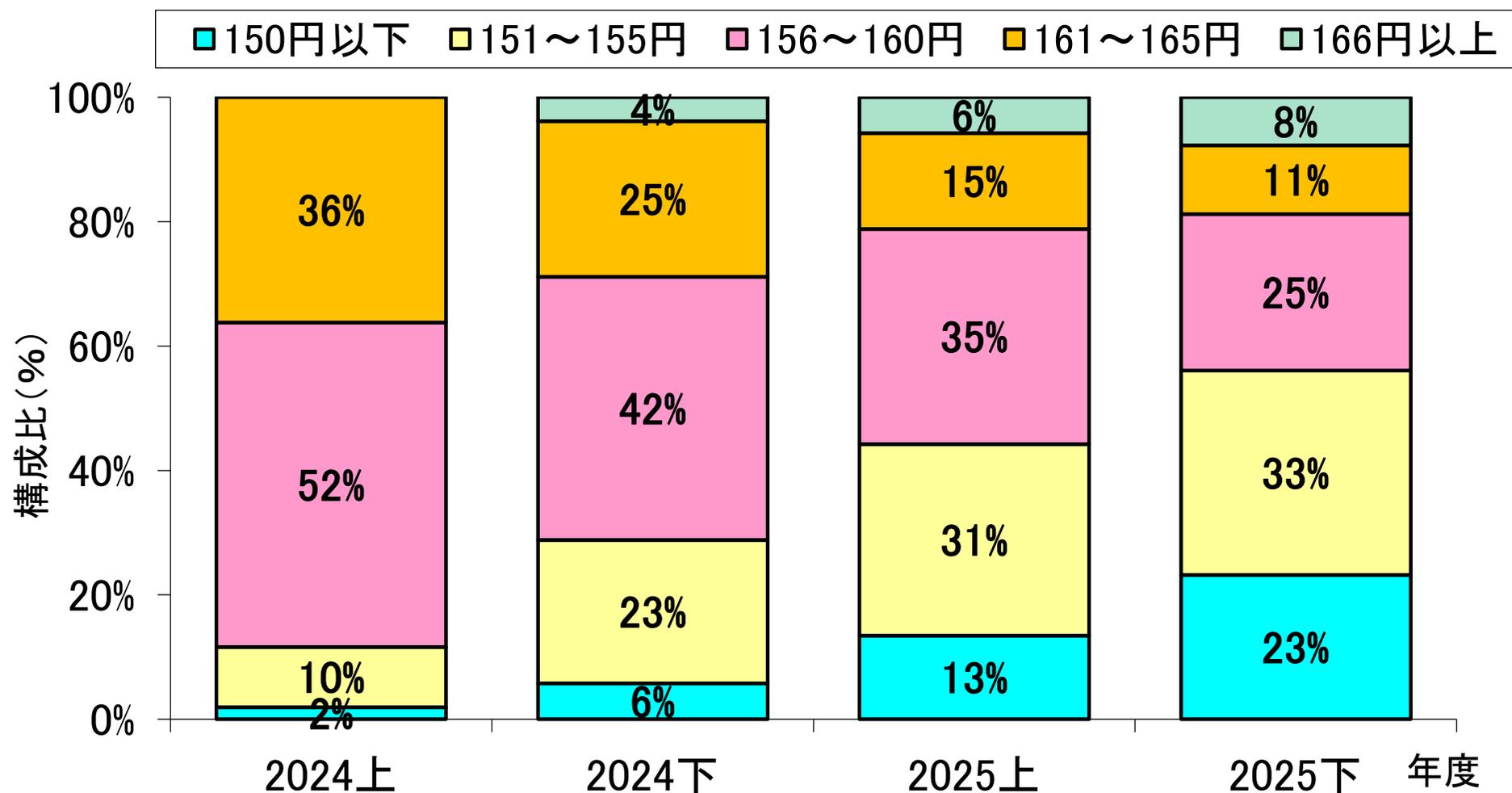


## 2. 会員の見方 (3) 為替動向



### ① 対ドル

- 24年度上期は、半数が「156～160円」で推移すると見ている。
- 25年度は円高方向に振れるという見方が増えている。

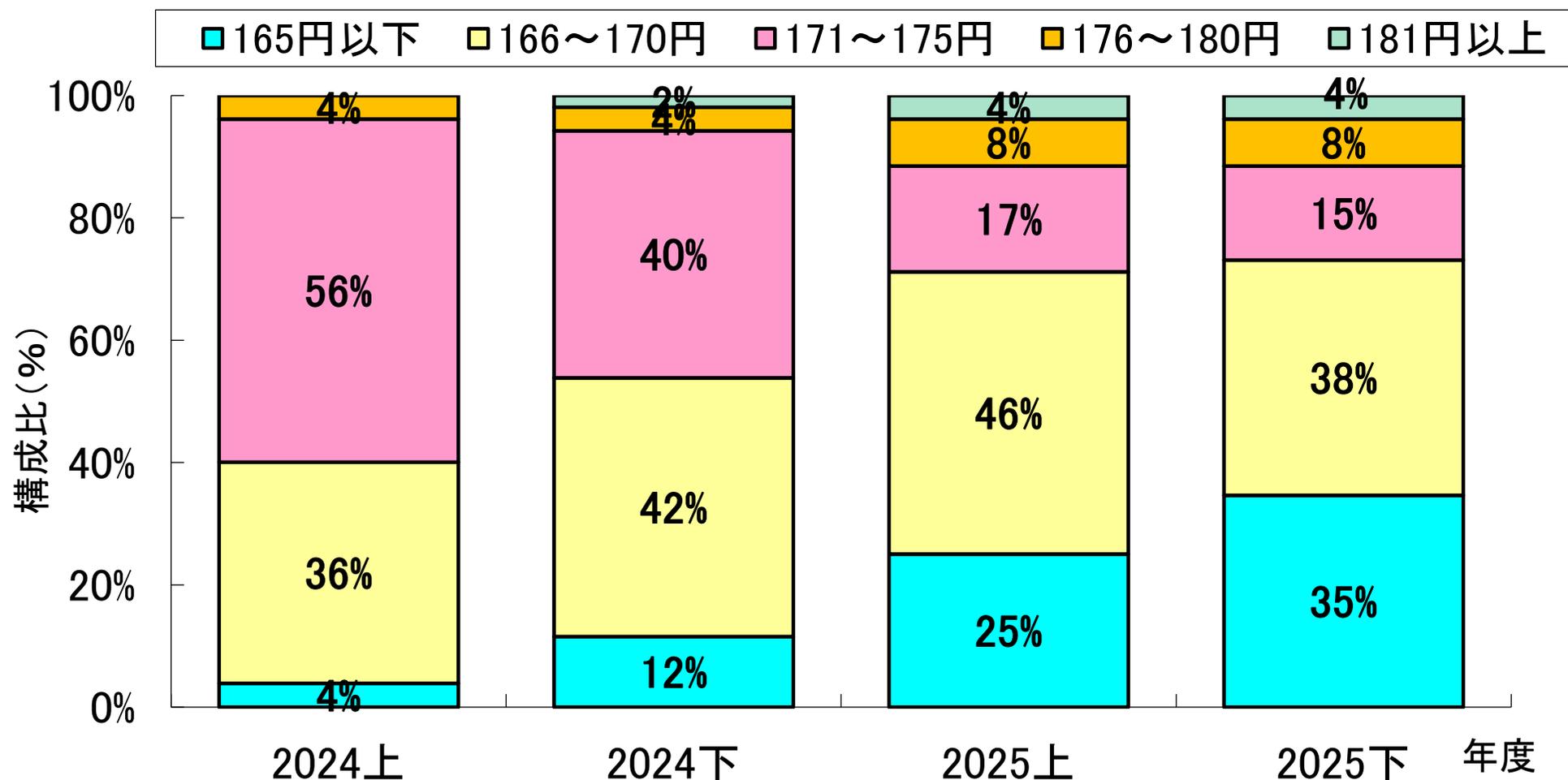


## 2. 会員の見方 (3) 為替動向



### ② 対ユーロ

- 24年度上期は、半数が「171～175円」で推移すると見ている。
- 25年度は円高方向に振れるという見方が増えている。



## (4)トピックス調査

### 需要予測に影響を与える要因

- 需要予測にpositiveな影響を与える要因としては、国内は公共投資、民間設備投資、部品・部材状況、海外は公共投資、民間設備投資の他に、為替動向の影響を挙げる答が多かった。
- 一方、negativeな影響を与える要因としては、国内は、資源価格状況、為替動向や物流費状況の答が多く、海外は、ロシア・ウクライナ問題や各国中央銀行の利上げ、販売店在庫状況の過多の影響を挙げる答が多かった。

	Positive要因	Negative要因
国内市場	①公共投資(114) ②民間設備投資(107) ③部品・部材状況(16)	①資源価格状況(63) ②為替動向(58) ③物流費状況(48)
海外市場	①為替動向(103) ②公共投資(64) ③民間設備投資(57)	①ロシア・ウクライナ問題(50) ②各国中央銀行の利上げ(41) ③販売店在庫状況の過多(35)

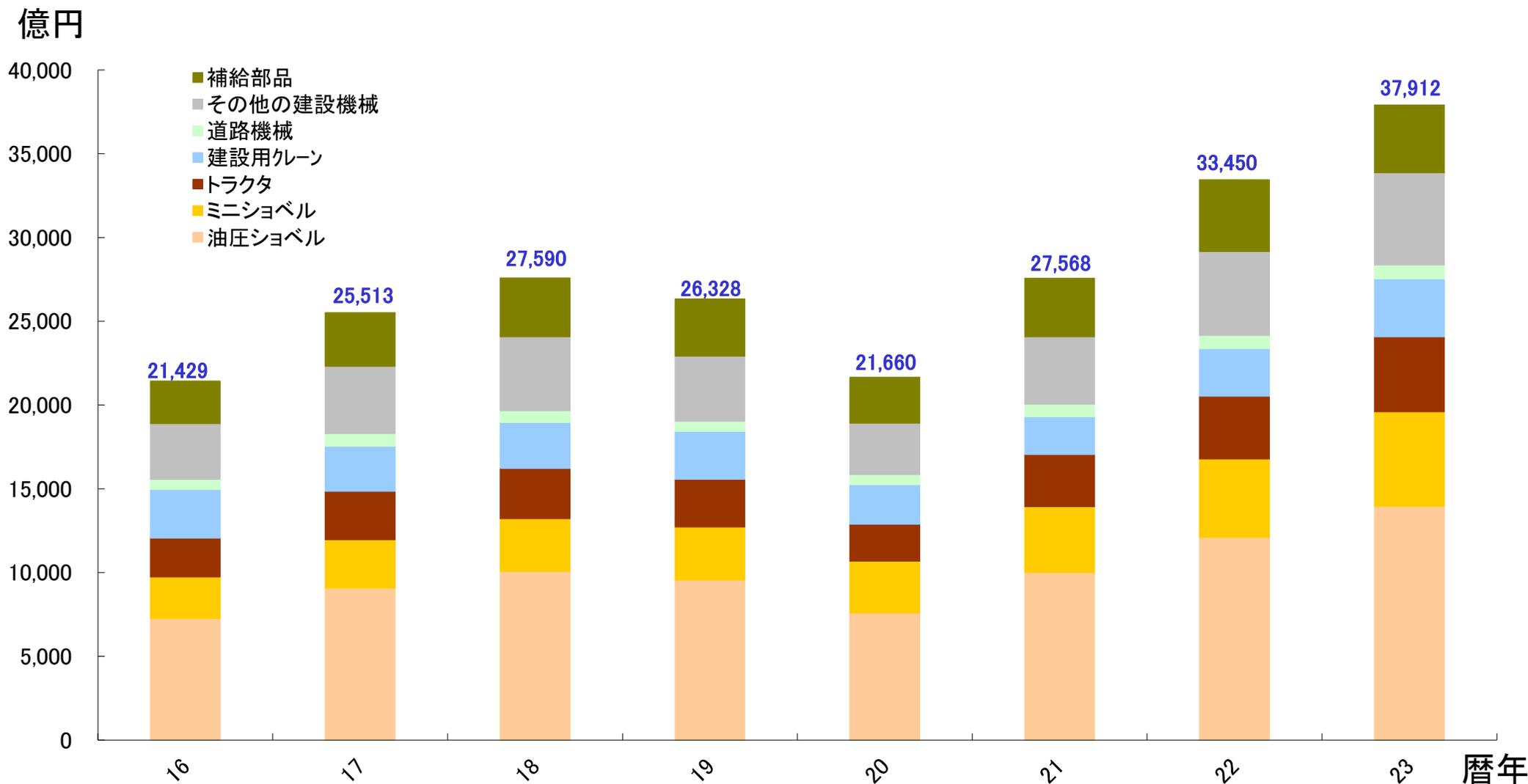
- 今後の市況に影響があると思われる要因として、国内・海外それぞれ以下の12項目のうち、3つまで優先順位をつけて回答。  
1.公共投資、2.民間設備投資、3.為替動向、4.各国中央銀行の利上げ、5.ロシア・ウクライナ問題、6.コンテナ状況、7.部品・部材状況、8.資源価格状況、9.物流費状況、10.鋼材価格状況、11.販売店在庫状況、12.その他
- ( )内の点数は、影響があると思われる順に①、②、③とし、①を3点、②を2点、③を1点として算出。

### 3. 2016～2023年(暦年)出荷金額ベース



#### ①機種別推移(補給部品を含む)

○ 23年は7機種が増加となり、過去最高の3兆7,912億円(13%増加)



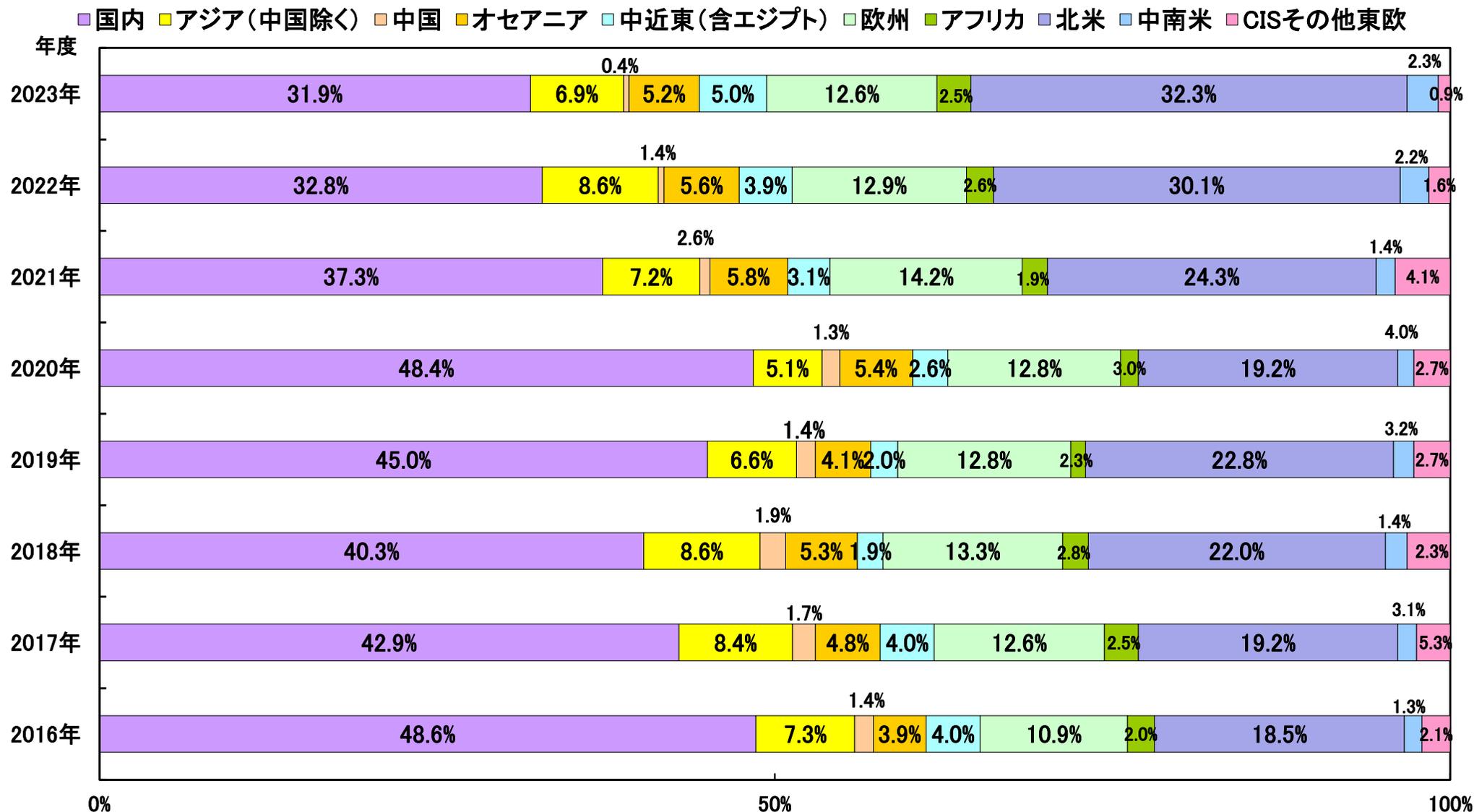
\* 9機種(油圧ショベル、ミニショベル、トラクタ、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、基礎機械、油圧ブレードカ圧碎機、その他建設機械)の出荷金額ベース(補給部品含む)。

出典: 建機工自主統計

# 【参考数値】仕向先別出荷金額

## ②構成比推移:2016～2023年度

○ 23年度は北米の割合が増加し、全体の3割を超えて最大の仕向先に。



\* 9機種(油圧ショベル、ミニショベル、トラクタ、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、基礎機械、油圧ブレーカ圧砕機、その他建設機械)の出荷金額ベース(コンポーネント含まず)

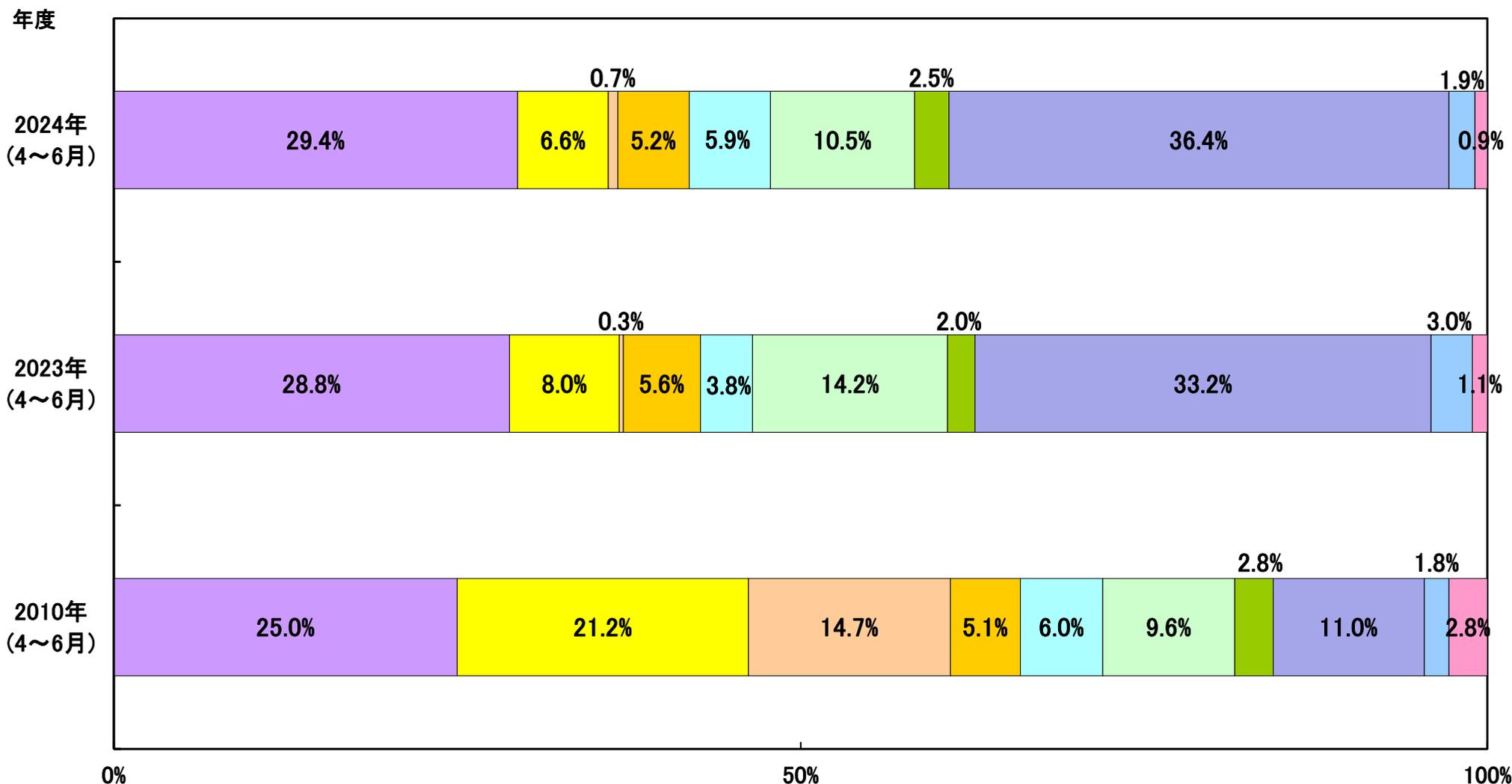
出典:建機工自主統計

# 【参考数値】仕向先別出荷金額

## ③構成比推移:2024年4～6月

○ 2024年度は前年度と比べ国内と北米の比率が増加。

■ 国内 ■ アジア(中国除く) ■ 中国 ■ オセアニア ■ 中近東(含エジプト) ■ 欧州 ■ アフリカ ■ 北米 ■ 中南米 ■ CISその他東欧



\* 9機種(油圧ショベル、ミニショベル、トラクタ、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、基礎機械、油圧ブレーカ圧碎機、その他建設機械)の出荷金額ベース(コンポーネント含まず)

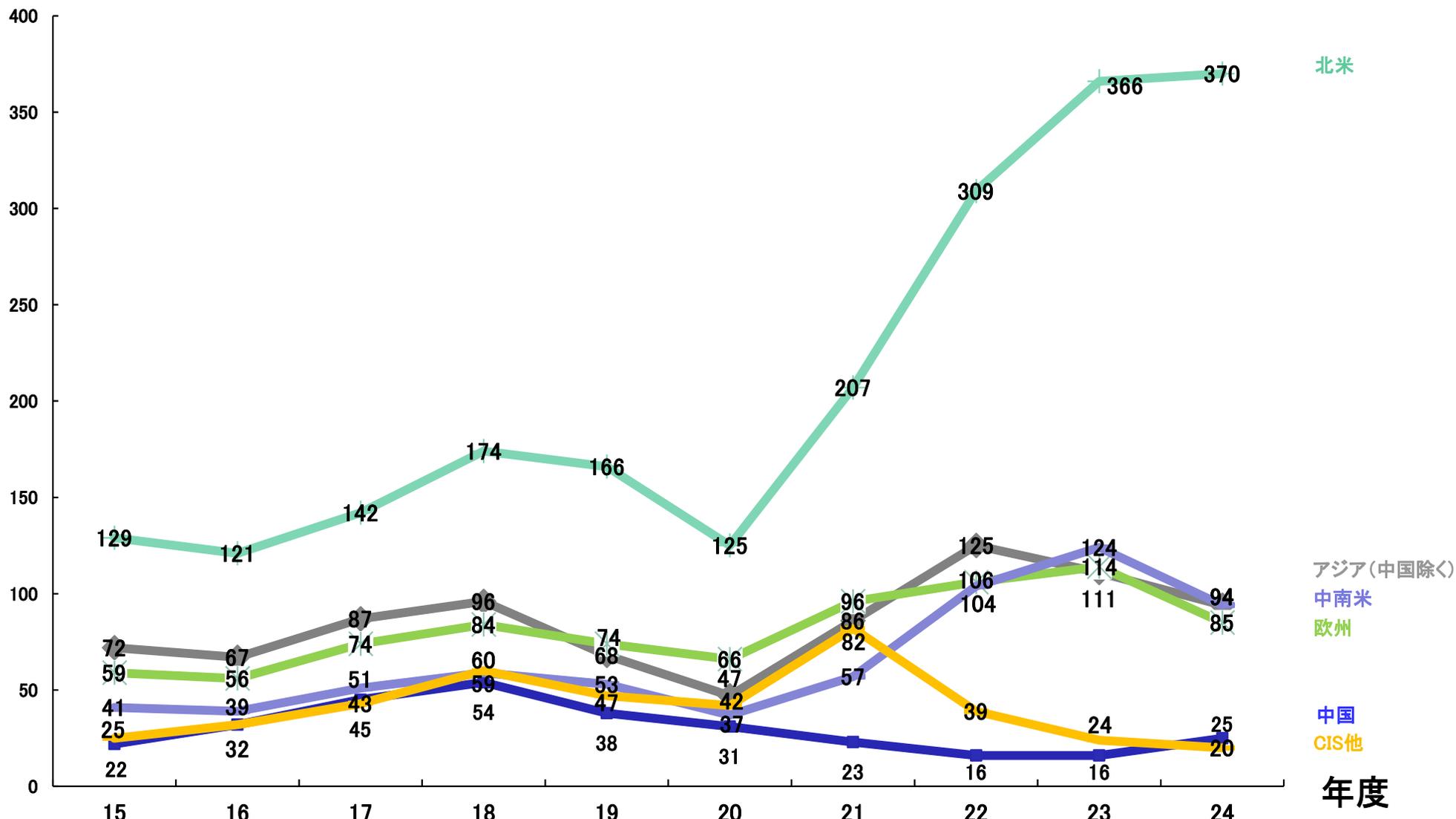
\* 2010年4～6月期は中国への比率が最も高かった年度の当該期間

出典:建機工自主統計

# 【参考数値】仕向先別出荷金額

## ④2007年度を100とする指数の推移

○ 北米向けは大きく伸びたが、中国向け、ロシア・CIS向けは減少傾向。



\* 9機種(油圧ショベル、ミニショベル、トラクタ、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、基礎機械、油圧ブレーカ圧碎機、その他建設機械)の出荷金額の指数(2007年出荷金額を100とする)

注)2024年度は4~6月の仕向け先実績より予測 出典:建機工自主統計